

氏名 <small>(法人にあっては名称)</small>	株式会社ホライズン・ホテルズ
住所	富山県富山市大手町2番3号
計画期間	平成31年4月1日～令和4年3月31日
基準年度(*1)	平成28年度～平成30年度(平均)

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(\*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上(特定事業者) <input type="checkbox"/> (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上(特定事業者) <input type="checkbox"/> (3)特定事業者以外の事業者
------------	---

2 事業の概要

事業者の業種	旅館・ホテル (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：7511)
事業の概要	ホテル

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する推進体制

毎月、各セクションの水光熱費用を出しエネルギーの削減に努める。
---------------------------------

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	平成28～平成30年度 (平均値)	令和元～令和3年度 (平均値)	$((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量)
温室効果ガス実排出量(*5)	5,832 t-CO <sub>2</sub>	5,800 t-CO <sub>2</sub>	0.5 %
温室効果ガスみなし排出量(*6)		5,800 t-CO <sub>2</sub>	0.5 %
目標設定の考え方	空調・熱源設備を中心にして年0.5%のエネルギー改善を目標とする。		

- \*1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(\*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(\*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。
- \*2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。
- \*3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。
- \*4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六ふっ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。
- \*5 温室効果ガス実排出量とは、上記(\*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。
- \*6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(\*5)に対して環境価値(\*8)に相当する温室効果ガスの削減量を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(\*7)の抑制に関する目標 (※任意記載)

事業分類	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	平成28～平成30年度 (平均値)	令和元～令和3年度 (平均値)	$((a-b)/a) \times 100$
旅館・ホテル	5832	5800	0.5 %
			%
			%
原単位の指標及び 目標設定の考え方	空調・熱源設備・照明設備を中心に年0.5%のエネルギー改善を目標とする。		

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の内容

BEMSを使用をしてエネルギーの効率化。  
 熱源、給排気、空調機設備のバルブの張り調整及び取替えをこまめに実施して熱交換のロス軽減。  
 蒸気のドレトラップの清掃を実施し蒸気のロスを軽減。  
 ホイラーの空気比の調整。  
 電球及び照明器具のLEDの取替えの継続。

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の内容 (環境価値(\*8)の活用等)

特になし。

(5) 温室効果ガスの排出の抑制等に関する基本方針

電灯、空調スケジュール管理の徹底。  
 館内、不必要な箇所の消灯及び空調のOFFを徹底する。

5 その他の取組

毎月、部署ごとに水光熱を検針。前年対比で増加した部署については、原因を調査し対策。設備等に不具合があればすぐに処置をする。  
 月ごとで屋外照明のスケジュールの変更。館内の無駄な照明や空調はスイッチを切る

\*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。

\*8 環境価値とは、オフセットクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(\*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	株式会社ホライズン・ホテルズ 広島ホテル事業所
事業所の所在地	富山県富山市大手町2番3号
事業所の業種	旅館, ホテル
事業の概要	旅館, ホテル

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	削減量の対基準年度比
	平成28～平成30年度 (平均値)	令和元～令和3年度 (平均値)	$((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量)
温室効果ガス 実排出量	5,832 t-CO <sub>2</sub>	5,800 t-CO <sub>2</sub>	0.5 %
温室効果ガス みなし排出量		5,800 t-CO <sub>2</sub>	0.5 %
目標設定の考え方	3年で0.5%削減を目指す。		

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の内容

<p>照明設備のLED化、老朽化している空調設備機器の更新。</p>
------------------------------------

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の内容 (環境価値の活用等)

<p>特になし。</p>
--------------

2 その他の取組

<p>毎月、部署ごとに水光熱使用量を検針。前年対比で増加した部署については、原因を調査し対策。設備等に不具合があれば早急に対応する。 月ごとで屋外照明のタイマースケジュールの変更。館内の無駄な照明や空調はスイッチはこまめに切る。</p>
--